

三木市卓球協会を振り返って

藤 原 正 明

三木市体育協会が発足したころ、私は三木高校に勤務し卓球部の顧問であった。その関係で三木卓球協会の理事や事務局長の仕事をするようになった。昭和40年前後のころには会長となり、体育協会の役員や体育指導委員もしばらく勤めたことがある。昭和45年、転勤となり、これらの仕事から離れ、現在は卓球協会の顧問となっている。

卓球協会は、市の誕生と共に三木市卓球協会と改称し、中嶋正明君が会長、平井基一、土出勝、坂田憲一、鈴木喜久雄君らが理事で、旧三木町役場の庁舎で当時、図書館を兼ねていた公民館に集まり、理事会を開いていた。夜遅くなるとよく酒も飲んだが、そのころは、自転車が最も便利な交通用具であり、細川町の自宅まで帰ると、大抵、酔いも醒めていた。

中嶋君は、戦後、学生時代に大阪市代表として卓球大会に出場した著名選手であり、明石・加古川・高砂の各市の卓球人の間にも、よく顔を知られていたから、近年の東播七市対抗卓球大会の誕生にもいち早く参加し親善の成果をあげることができた。他の理事諸君は、三木中学や三田学園で活躍した選手であった。

30年間の卓球協会の事業を振り返ると、経済の成長に大きく影響されていたと思う。人々は仕事を大事にしてスポーツに割く時間を持てなかった。せいぜい見るスポーツで満足していたように思う。日本の卓球は世界でたびたび優勝し、日本の中央では卓球ブームが起きてはいたが、地方にまでは及ばず、低成長期となってようやく卓球人口が増えるようになった。

市民卓球大会は、当初、昭和29年には卓球用具のメーカーが所属のコーチを派遣し、優勝旗を寄贈するなど大きな援助を受けながらも、現市役所のある地にあった公民館に2台の卓球台を置いて開催したから、参加選手も僅かだったに違いない。第2回大会は、旧三木高校講堂で開催した。去る6月の市制30周年記念大会は第43回である。春秋2回開催を原則としていたが、年1回しかできない年が多かったと思う。

この間、卓球協会を支えて発展させてくれた人たちは、寺本興道、山本晃一、沢田勝、その他の若い理事諸君、緑ヶ丘から参加の理事森田博則君、女子の宮本敦子さんらで、10年以上の努力の積み重ねがあった。「継続は力なり」という言葉を改めて思うのである。

また、旧三木高校の体育館であった市立体育館や、勤労者体育センターを利用した、市民卓球教室の開催、卓球クラブの練習、初期のころ卓球台を寄贈されたライオンズクラブ等、多くの市の関係者の目に見えないご援助があったことは忘れられない。最後に、今後、若い優秀な選手が輩出することを願うものである。

三木市卓球協会

会長 中 嶋 将 雄

匿名座談会(58年9月11日、協会理事)

協会設立三十周年をひかえ協会理事の方々といっても42、43年ごろまでに就任された方で卓球協会の歴史という大げさになります。懐古談を自由に語っていただくことにします。そこで29年に市制が施されましたが、その前後から、今言いました42、43年ごろに限定しております、よろしくをお願いします。

- 三木町の頃三木卓球クラブで活躍されていた方々によって、三木卓球協会が生まれ、山本角治さん(故人、山本呉服店)が初代会長で、今の中嶋会長さんを中心にして29年に第一回三木市軟式卓球大会を開催したり、東播六市対抗卓球大会に参加したり、市の内外で活動を始めました。
- 第一回の市民大会は今の市立図書館のある上の丸に、当時、三木高の講堂で、4台ほどの卓球台で男子だけで始めています。大阪の卓球用具のメーカーが後援してくれたと思っています。
- 優勝は萩原君(別所町)だった。
- そうだ。第二回は中嶋君(現会長)、第三回、四回は土出君(現理事、金物商自営)が連覇、第五回は吉田君(若人ク)が優勝している。
- その頃の大会は軟球だった。三木市軟式卓球大会が正式の名称だったと思うよ。青年団が、軟球を使用していたので市民大会も軟球の時代が続いている。高校は硬球だった。
- たしか35年に高校は、もう硬式になっていた。
- 協会の成立が案外スムーズにできたのはそれ以前に土壌があったからだ。
- 中嶋君が高校時代に、県で活躍していて、明石や加古川の卓球人と交遊があったのが大きい。地元では石田さん(サボテン印) 杉森さん(塗装店) 松本さん、丸橋さん(明盛街、靴店) 北岡さんといった人たちが、22、23年ごろから練習をしていた。
- 杉本さんは、軍隊から復員の途中、舞鶴で卓球をしたと言われている。
- 練習とか大会を、石田さんの事務所(旧、中町にあった。)でやっていたと聞いている。
- 前田町の、もとの昭和キネマに入る三角の道路、広田の食料品店の傍にも練習場があった。
- 二十年代の後半には、今の岩宮町に剣道の岡田道場があり、卓球もそこで練習していた。旧三木町から自転車を通ったものだ。中学生もいたよ。
- 三木高で、はじめて近畿大会に出場した森本君もそこで育ったといえる。彼は、一年修了で大阪へ転居した。
- 彼との同級生は、のちに会長を勤めた衣川君(故人、堯之、三木市役所)や、市民大会で優勝した吉田透君(えびす町在住)がいる。(別添資料)
- 話はとぶが、33年に、いま話のあった三木高の講堂で第四回の東播六市対抗卓球大会を主催したが、当時、関学の小松原という全日本クラスの選手と、三木市から、いま話のあった人たちと同級の山口史郎君(緑が丘在住、東海銀行)が15—15ぐらいまで接戦していたのを覚えている。大したものだと思っていたら、そのあとストレートに点をとられた。彼は当時、三木高の三年生じゃなかったかな。
- もう高校生の親になっているが、三木へ帰った機会にと、いまでも市民大会に参加している。
- 旧三木町の頃は、いまの稲美町のうちの母里村と、一般・中学と対抗戦をやっていた。

—— 三木で開催のときは、今の市役所の場所に平屋建ての公民館があり、2台か3台並べてしたものだ。

理事の中にも、中学生の選手で出場したものが多いよ。

—— 市民大会に女子はいつ頃はいったかな。

—— 35・36ごろではなかったかな。盛衰があって、参加者が少なく、女子だけリーグ戦をしたこともあった。

—— 初期のころは、男子だって、大会当日に受付けて、組合せをつくっていた。それでも3時ごろには試合が終っていた。

—— 衣巻市長（体育協会会長も兼ねておられた）が、表彰式に来られることになっていながら、予定より早く試合が終って困ったこともあった。

—— 市民大会も、盛會になるに従って、春秋二回開いた。

—— 職域対抗というのをやったこともあるが長続きせず、また第一回から再開したり……。

—— ランキング戦も、いまの大会の前に、やっている。市民大会ではダブルスがないので、そのためと、女子の奨励も目的だった。

—— 中嶋会長が、高松君（昭雄、元理事東京在住）と組んで優勝している。

—— 古い話だ。

それと、三木市卓球協会は、29年9月に他の単位協会や、体育協会と同時に設立されている。ただ、私の記憶では東播六市大会を主催したときに、ある市から、三木卓球協会主催では参加できない。三木市卓球協会なら参加するとクレームがついたことがある。

—— 名前は変わっていたが、ゴム印の古いのを使って案内したために誤解が生じたのだと思う。

—— 東播六市対抗への参加費や、大会開催時は、別に援助してもらっていた。

—— 活躍した選手を挙げて貰おうか。

—— 6・7回ごろまでは、前にあがった人の他に、平井（現理事、自営）鈴木（故人、喜久雄、元理事）坂田（現理事、自営）沢井（一夫、三木市役所）

—— 阪神相互の支店長だった三木さんが、カットプレーで優勝されたことがある。

—— いつまでも、卓球を続けたいと誓ったものだ。

—— 三木高のOBでは生友（三木市役所）松原（神戸大丸）高松、寺本（現理事、三木東高教諭）井沢（自営）宮本（和光証券）白井（自営明月堂）公森（自営）山本晃一（現理事、自営）大山虎一（バンドー化学）木下（現理事）の諸君がいる。

—— ほかに、岸本君（関電三木営業所）がいた。彼は、3回ぐらい優勝している。寺本君が小野工に勤めてから（40年以後）三木から小野へ通学する選手も参加して、盛大になってきた。

—— 女子は、やはり三木高卒の選手が主だった。旧姓であげると、永尾つね子、藤田、狩野、宮嶋、大橋、吉田、鈴木、永尾、井上、明芝、堀尾、田中、西海、谷本、井筒とあげられる。

—— 市民大会には、なかったが、東播六市対抗ではいずれも頑張った。

—— そのあと、橋本、柏木などいい選手がでている。

—— 神戸市の三菱電機体育館で県の大会があり、参加している。

- 三木卓球クラブや、卓球教室のことも協会の仕事としては大きいんじゃないか。
- 卓球クラブは直接、協会とは違っていたが、メンバーは重なっているものが多かったし、技術の向上には役立っている。
- 加佐の、いまの戸田精密の場所に明星という卓球場があり、週2日練習していた。
- 矢張り、いつでも練習できる場所が欲しかった。
- 30年代の終わりから40年代にかけての頃だ。
- 三木高が加佐に移転後、旧三木高の体育館が市民体育館になり、よく利用した。三木高の移転は42年だったと思う。
- 市教委が卓球教室の開催を依頼してきたのが、47年だった。
- 緑が丘の、現協会理事の宮本さんがそのころ中心となり、熱心に参加された。
- 寺本君、山本君、木下君、沢田君（理事）が献身的に努力してくれたので教室も度を重ね、市の卓球人口も、急増した。
- 勤労者体育センターが52年にオープンし、場所に恵まれたことも大きい。
- 古い話に戻るが、市民大会も市内の他の行事と重なると参加者が激減していた。日程を選ぶのにも苦労した。
- その点、七万都市となると、そんなことは気にならなくなった。
- 小学生の県大会で優勝者（辻田明君）がでるなど、素晴らしいことが見られるようになった。
- この選手を育てることが大事だ。
- まだまだ、お話しになりたいことが多いと思いますが、おめでたい優勝の話がでしたので、きょうはこのあたりで閉じることにしましょう。今後も、一層、当協会に力を貸していただき、三木市の卓球の発展にご尽力下さい。本当に、お疲れのところ有難うございました。

団体
若人
個人
吉田が優勝

第五回三大市軟式卓球大会

第五回三木市軟式卓球大会は十三日三木市で団体十八チーム、個人六十名が参加して行われ団体で若人クラブが、個人で吉田（若人）が優勝した。成績次のおお

【団体】津決闘

細川中OB(2-1) Y T M
若人クラブ(2-1) 魚住刃物

三位決定

魚住刃物(21) Y T M

2000

2003

衣
川
2
 $\overline{111}$
1
78
O
武
井

高松2
111
14
0
主

「誰か」をさがせ

【佳句】主人云：「此山名曰：『靈山』。」

$$\frac{Y_{TM}}{Y_{OV}} = 2.1$$

坂田 21 広田

(大分県)

20

吉田 25 歳

(若人々)

彈丸

$$\frac{119}{31} = 3\frac{1}{31}$$

$$\overline{\frac{11}{7}}$$

吉田 2 $\overline{511}$
11
37
○平
林

決勝戦

$$\begin{pmatrix} 9 \\ 11 \end{pmatrix}$$

(若人ク)^{E2}
111
111
3535
1
(大宮町)¹

地元紙東播タイムスより抜粋